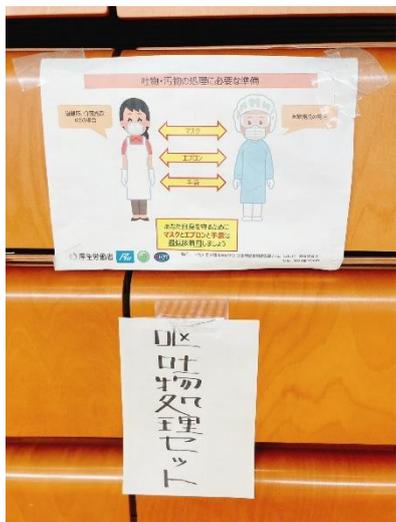


災害支援ナース活動報告

派遣期間；いしかわ総合スポーツセンター（金沢市）2024年1月21日～1月24日
神戸大学医学部附属病院 延堂 麻紀

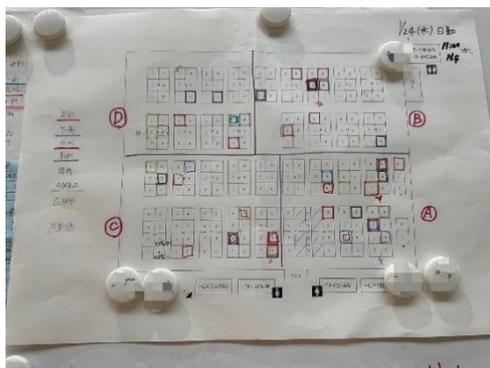
いしかわ総合スポーツセンターは1.5次避難所で、金沢市内にあるためライフラインは全て整っていた。1.5次避難所とは、介護が必要な方や障害がある方、妊婦などがホテルや介護施設などの2次避難所に入るまで一時的に受け入れる施設である。

災害支援ナースや保健師の他に、薬剤師・介護士・JRATも駐在しているため、それぞれの専門性を生かした活動ができ、看護師は介入が必要な入所者の観察と医療対応に専念することが出来た。



私たちが派遣された頃から、嘔吐・下痢を訴える入所者が増加したため、ノロウイルス感染症を想定し保健師を中心に感染予防の徹底と、症状のある入所者と家族への注意事項や対応について指導を行った。

避難所は病院ではなく居住場所のため、症状を訴えてきた入所者しか健康状態の把握が出来なかった。また入所者はテント内で生活し、なかなかの様子を伺うことが出来ないことや、入れ替わりが激しいこと、障害があるため自分から訴えられない入所者がいることも把握を困難にしていると感じた。そこで不調を訴える入所者を少しでも発見出来るように、要支援者の日常生活援助を行っている介護士や、全入所者の情報を持っている保健師と情報を共有した。そのツールとして、何処にどんな症状の人がいるか分かるよう症状別に色分けしてテントマップに記入したものを活用した。



今回私たちは、発災から3週間目、いしかわ総合スポーツセンターが避難所となって10日余りで派遣となった。前班から引き継いだ活動内容の継続、また変化するフェーズにも対応していく必要があり、新しく行ったこととして、看護介入している入所者の観察内容と対応が記入出来るワークシートの作成、日勤と夜

勤の業務マニュアルを作成し、活動が円滑かつ継続出来るように、次班のメンバー全員へマニュアルに沿って一括オリエンテーションを行った。今回の経験と学びを今後の災害看護に活かしたい。

